

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-29

学校名・団体名	いわき市立好間第二小学校
HPアドレス	http://www.iwaki.gr.fks.ed.jp/?page_id=128
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	届けよう歌と演奏を！音楽で地域を 元気にしよう！
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本研究は、音楽教育において、自分たちの奏でる音楽で被災を受けた地域の方々を元気にすることが目的である。音楽の専門家である筑波大学附属小学校教員より音楽指導方法について全職員が研修を受ける機会を設けたり、先進校視察により教職員のスキルアップを図ったりして、子どもたちの歌声や合奏の質を高めていく。さらに、校内コンサートや地域の音楽祭、施設への慰問を通して、人々を感動させ、元気を与えることができるような音楽表現を極めていく。</p> <p>今年度は、原発地域からの避難児童が16名在籍し、地域には今なお帰還を願って居住が定まらない方々もいるという現実から、被災の方々にもいわき市の地域の良さを伝え、いわき市に伝わる伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」や「フラダンス（いわき市がフラダンス発祥の地）」を伝えて、いわき市を愛し、いわき市で共に暮らす喜びを分かち合いたいと考え、企画した。</p>	

1. 活動時期、内容

(1) 音楽科4学年コンサート 「エル・クンバンチェロを演奏しよう！」

○平成28年6月~11月

9月の方部の音楽祭参加、福島県下小中学校音楽コンクール優秀賞、10月の学習発表会、11月の老人ホーム訪問において演奏し、保護者や地域の方々、避難している被災の方々に元気を与えた。

(2) 全校集会 全学年

①「ミュージック・ダンス」クラブ4~6年発表

○平成28年7月

「ミュージック・ダンスクラブ」の子どもたちが、練習しているダンスを披露した。

②地域及び世界の伝統音楽鑑賞

○平成28年11月

地域の「じゃんがら念仏踊り保存会」による演奏や歌、踊りを全校集会で披露し、地域の伝統芸能の良さに気付かせた。

○平成28年12月

ウクライナの民族楽器バンドウーラの奏者を招き、ウクライナ民謡の歌や楽器演奏を鑑賞し、日本外国の伝統音楽の違いに気付かせた。

③本校児童による小学生バンド演奏

○平成29年2月

6年児童のバンド演奏に合わせてビリーブの全校合唱を行った。

(3) 学習発表会 全学年

○平成28年10月

6年生が映画「フラガール」の劇を演じ、いわき発祥のフラダンスを披露し、全校生や保護者地域の方々が参観し、大勢の方々に感動を与えた。

(4) 音楽科5学年授業 日本の伝統音楽や諸外国の民謡に親しもう！

○平成28年9月~11月

地域の伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」演奏や踊り・歌の良さを感じ、日本の伝統音楽や諸外国の民謡の良さについても学習を広げ、音楽の良さや美しさについて感性を高めた。

(5) 音楽科現職教育研修会の開催 全職員

○平成28年6月~平成29年3月

音楽の授業改善に向けての研修会を行う。助成金で購入した図書や資料をもとに、指導案作成や合唱・合奏方法等の教材研究、音楽的環境整備について学び、一人一人の音楽的素養や授業の質の向上を図った。

(6) 先進校視察 代表教職員3名

○平成29年1月~2月

先進校である筑波大学附属小学校及び教官のもとに研修に行き、授業改善や合唱・合奏指導法について学び、研修後は伝達講習会を行って全職員に広め、理解促進を図った。

(7) 音楽科教職員対象研修会 全職員

① 市総合教育センター主催研修会

○平成28年12月

いわき市総合教育センター主催の研修会を本校会場にて開催した。筑波大学附属小学校中島寿先生を講師にお招きし、約50名の市内の教職員が参加して教職員対象の研修会を実施した。

○平成29年3月

② 本校主催研修会

筑波大学附属小学校高倉弘光先生をお招きし、本校4年児童を対象に授業を行っていただいた。その後本校教職員対象に、音楽づくりについて講義と実技研修を行った。

2 成果や子どもたちへの効果

(1) 研修や授業を通して、子どもも教職員も音楽の感性が磨かれ、地域の伝統音楽を見直すとともに、郷土を愛する心情が生まれ、避難しているの方々を含めた地域に対し「音楽により生きる力を与えることができる子ども」を育成することができた。

(2) 貴財団の助成により、科学分野で活性化した本校が、今年度から音楽分野にもチャレンジし、全教育活動に広がりや深まりが出て保護者や地域の方々の学校に対する信頼がより一層厚くなり、高い評価をいただくことができた。

(3) 本校において、次年度10月に福島県全域対象の福島県小学校音楽教育公開授業研究会を開催する計画である。県内各地から参集する教職員に、貴財団の助成により音楽的素養を身に付けた子どもたちが生き生きと授業に参加し、歌や演奏を披露することができるかと確信している。